平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地域企業論 (Regional Enterprises)			授業コード	E046551
担当教員名	山城　興介			科目ナンバリングコード	E31405
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件					
受講心得	出席状況を直接の評価基準とするわけではありませんが、遅刻と欠席による授業内容の把握の遅れは、そのまま、課題提出の困難さを招きますので注意してください。				
教科書	必要に応じて資料を配布します。				
参考文献及び指定図書					
関連科目	社会調査法、まちづくりマーケティング、まちづくりマーケティング演習、観光ビジネス論、観光学入門、地域経営論、地域イノベーション論、データ解析A、経済統計A、経済統計B				

授業の目的	「地域に根ざした企業の経営を学ぶ」ことを目的とする。本講義は「地域と企業の関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。
授業の概要	地域振興は地域企業の発展如何にかかっていると言って過言ではない。同時に地域企業の有り方と地域の産業構造は密接な関係を有している。本講義では九州・大分県を中心に地域の産業構造と所得水準の関係について分析し、次いで地域企業の現状と在るべき姿について明らかにする。 九州・大分県の地域企業のほとんどを占める中小企業のなんたるかを抜きにしては、地域企業の実態に迫れない。まず中小企業の特質について学ぶび、その後、地域企業のなんたるかについて言及すると共に、地域の経済社会にあって企業はどうあるべきなのかを示す。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ガイダンス・イントロダクション／産業分類と産業構造 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の産業分類と産業構造が説明できる
第 2 週 ： 県内総生産と県内総支出 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の県内総生産と県内総支出が説明できる
第 3 週 ： 一人当たり県民所得と産業構造 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の一人当たり県民所得と産業構造が説明できる
第 4 週 ： 地域の産業経済と製造業の動向 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の産業経済と製造業の動向が説明できる
第 5 週 ： 第1期まとめ 第1期を振り返り、補足説明の必要な部分、要点の確認を行うとともに、当日指定するテーマに従ってレポートを作成する。	レポート提出
第 6 週 ： 地域の産業経済と建設業の動向 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の産業経済と建設業の動向が説明できる
第 7 週 ： 公共投資と財政赤字	

大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の公共投資と財政赤字が説明できる
第 8 週 ： 地域の産業経済と農林水産業の動向 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の産業経済と農林水産業の動向が説明できる
第 9 週 ： 地域の産業経済と小売業の動向 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の産業経済と小売業の動向が説明できる
第10週： 第2期まとめ 第2期を振り返り、補足説明の必要な部分、要点の確認を行うとともに、当日指定するテーマに従ってレポートを作成する。	レポート提出
第11週： 地方の経済産業政策 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の経済産業政策が説明できる
第12週： 移入型企業と移出型企業 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の移入型企業と移出型企業が説明できる
第13週： 移出型企業の振興・育成策 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県の移出型企業の新興・育成策が説明できる
第14週： 求められる企業像 大分県の統計資料を基に分析する	復習：大分県で求められる企業像が説明できる
第15週： 最終まとめ これまでの講義を通じて得たものをレポートの形で作成、提出。	レポート提出
第16週： 期末試験 これまでの内容について、記述式の試験を実施する	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	直接の対象は大分県であるが、地元・各人の出身県を対象に置き換えて考える。
【知識・理解】	法整備、制度、条例、統計値の見方を学び、理解を深める。
【技能・表現・コミュニケーション】	法整備、制度、条例、統計値の一連の作業を説明できる。
【思考・判断・創造】	数値に基づく合理的な思考を身に付ける。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**5点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**50点**	**5点**	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**20点**	**5点**	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**10点**	**5点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	完全な形での提出をすること。
発表・その他（無形成果）	